

＜ 運営推進会議における評価_様式例 ＞ ※公表用

【事業所概要】

法人名	㈱クロスサービス	事業所名	ほのかのぬくもり
所在地	(〒790-0095) 愛媛県松山市朝生田町7丁目13-28		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

- ・ご利用者、一人一人の今の状況に合わせて支援ができるようにしている。
- ・どんな状態であっても、相談窓口として機能できるようにまずは相談にのっている。
- ・ぬくもりという名前にあるように、職員だけではなくご本人・ご家族相互で関係が深まりホッとできるような雰囲気づくりを心掛けている。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2017 年 1 月 27 日	従業者等自己評価 実施人数	(6) 人	※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	---------	---------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2016 年 10 月 25 日、12 月 27 日 西暦 2017 年 2 月 28 日	出席人数 (合計)	(3) 人	※自事業所職員を含む
出席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (〇) 人 <input type="checkbox"/> 市町村職員 (〇) 人 <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター職員 (1) 人 <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (2) 人 <input type="checkbox"/> 利用者 (〇) 人 <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (〇) 人 <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (〇) 人 <input type="checkbox"/> その他 (〇) 人			

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・事故報告書とヒヤリハットのすみわけを行い、より分かり易くリスク管理できるようにする。 ・職員のサービスへの理解を深めていくために、ご利用者のケアを実践しながら、看護小規模で出来る事を模索する。 	<p>用紙を分ける事ができ、内容についてもミーティング等で話し合う事ができた。開設から述べ15名のご利用者を支援する事ができた。</p>	
II. サービス提供等の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングのあり方を工夫し、ご利用者への理解が深まる内容にする。 ・出勤者全員が申し送りに参加できるように、申し送りの時間を変えて、情報が共有できるようにする。 	<p>申し送りの時間を変えたり記録や共有方法等を変更して、情報の共有ができるように努めたが、全員というのが難しいところもあった。</p>	<p>具体的にはどのようなようにしているのか</p>
<ul style="list-style-type: none"> 2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31) 3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41) 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に、ご家族や他機関・多職種の参加を呼びかけ、情報の発信や共有をする。 ・町内行事を把握し、計画を持って参加できるように体制をつくる (ご利用者も参加できるように) 	<p>ご家族の参加も見られたが継続は難しかった。医療機関等の働きかけはできなかった。</p> <p>町内のお祭り等に参加する事ができた。また、だんだんとの交流もあり、今後もう少しずつ広げていく</p>	<p>医療関係者も情報を待っているところもあるのでは、近くの所からはじめてみるは</p> <p>今後も引き続き参加して欲しい 他事業所ともつながってほしいけるよう、場所を探していく</p>
III. 結果評価 (評価項目 42～44)	<ul style="list-style-type: none"> ・ご家族と関係をつくり、要望等が引き出せるようにする。 ・看取りについて、ぬくもりで出来る事や出来ない事などを整理し、体制をつくる。 	<p>ご家族とは送迎時等に声を掛けて関係に近づけるようにしている。看取りは1例取り組め、今後に繋げていきたい。</p>	<p>要望というとしにくい、不満となるとあったりする。聞き出し方で相手の意見はわかるので、改善のヒントになるのではないかと</p>

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<p>・災害に関する避難訓練は定期的に実施しているが、地域の訓練に参加できていないことや救命講習・AEDが適切に使用できるのか等課題も多い。特に、夜勤者の訓練参加が少くないので改善する</p>	<p>スタッフ一人で判断を行えるような訓練内容。マニュアルの作成・実行を行い、夜勤者が訓練に参加できるようにする</p>
<p>II. サービス提供等の評価</p> <p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～27)</p> <p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 28～31)</p> <p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 32～41)</p>	<p>・ご利用者にとって必要な支援が行えるよう体制をつくりスキルを上げていく</p> <p>・ご利用者が自宅で暮らせることを支援する</p> <p>ぬくもりと繋がる機関・職種を増やす</p>	<p>ご利用者の変化に応じて多様なサービス提供 (ぬくもりだけでなく) ができるように取り組んでいく</p> <p>運営推進会議を切り口に参加者を増やせるように、医療連携室等にも声をかけてまずはぬくもりに来てもらえるように取り組む</p> <p>ご家族の参加者も増えるよう努力する</p>
<p>III. 結果評価 (評価項目 42～44)</p>	<p>ご本人・ご家族の希望を聞きながら、その思いに近づけるように支援している。医療が必要な状態で自宅に戻る事が難しいご利用者も多く、自宅・地域とどのように繋がって支援していくのかを模索していく</p>	<p>ご利用者が安心して暮らせる地域がどのようなものか、お一人お一人のケースを通して考えていく。考えた事を事例等で発表していく (研修・会議等)</p> <p>ご利用者・ご家族とのカンファレンスを継続して行う</p>

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価・運営推進会議における評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できて いる	あまり できて いない	全く できて いない		
I 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	○ サービスに求められる「① 医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「② 在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている	○			理念については揭示もしているのだからやすいのでは、文言を変える事でより伝わりやすくなると感じる	<p>✓ ①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</p> <p>✓ ①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>	
2	○ サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している	○				<p>✓ 「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</p> <p>✓ 独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>	
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりで きていない	全く できていない		
3	○ 職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○			年間研修計画は予定通りに 行い事が難しいのでは。研修 ノートを確認する	<p>✓ 「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します</p> <p>✓ すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」</p> <p>✓ 育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」</p>
4	○ 法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務以外での機会を確保している		○			<p>✓ 「専門技術の向上のための日常業務以外での機会の確保」について、充足度を評価します</p>	
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	○ 介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている		○				<p>✓ 「情報を共有する機会」の充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます</p>
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
(3) 組織							

番号	評価項目	事業所自己評価			運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い		
6	○ 運営推進会議で得られた要望、明言等を、サービスの提供等に反映させている		○			✓ 「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の観点から、充足度を評価します
② 職員が安心して働くことのできる就業環境の整備						
7	○ 職員が、安心して働くことのできる就業環境の整備に努めている		○			✓ 「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します ✓ 例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます
(4) 情報提供・共有のための基盤整備						
① 利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備						
8	○ 利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有できるよう工夫されている		○		メモの共有はエピソードからの工夫だが、漏れたりする部分を気を付けて欲しい	✓ 「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの観点から、充足度を評価します

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おお よそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	○ サービス提供に係る利用者等および職員の安全確保のため、事業所においてその具体的な対策が講じられている			○	事故とヒヤリハットのすみわけが難しいと感じる。法人での理解を取り組みに活かして欲しい	✓ 「各種の事故に対する予防・対策」の充足度を評価します 対策が求められる事項としては、例えば「医療・ケア事故の予防・対策」、「交通安全」、「夜間訪問時の防犯対策」、「個人情報保護」などが考えられます	
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	○ 災害などの緊急時においても、サービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関の間で、具体的な対応方針が共有されている		○		連絡網で訓練しても職員に繋がらないケースがある。一斉メール等工夫していく	✓ 「緊急時におけるサービス提供のための備え」について、充足度を評価します ✓ 例えば、「安否確認方法の明確化」、「連絡先リストの作成」、「医療材料などの確保」、「災害時ケアのマニュアル化」などが考えられます	

番号	評価項目	事業所自己評価			運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おお よそ でき てい る	あまり でき てい ない		
II サービス提供等の評価						
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供						
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成						
① 利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施						
11	○ 在宅時の利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、利用者等の 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが行われている		○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「家族等も含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ✓ ケアが包括的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、家族等を含めた 24 時間の暮らし全体に着目したアセスメントが必要となります
12	○ 介護職と看護職がそれぞれの視点から実施したアセスメントの結果が、両職種間で共有されている			○		<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します ✓ 介護・看護の両面から行われたアセスメントの結果は、その後のつき合わせなどを通じて、両職種で共有されることが望ましいとい

番号	評価項目	事業所自己評価			運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足 えます
		よく でき ている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い		
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成						
13	○ 家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			✓ 「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することとは重要であるといえます
14	○ 利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を指すことを重視した計画が作成されている			○		✓ 「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します ✓ 「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成						
15	○ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			✓ 「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します ✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護に

番号	評価項目	事業所自己評価			運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い		
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践						
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映						
16	○ サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映が行われている	○	○			✓ 「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します
[具体的な状況・取組内容] ご利用者の状況に合わせて計画の見直しを行っている。また、毎月経過記録を職員が作成し、反映するようにしている						
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映						
17	○ 通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している			○		✓ 「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ✓ 訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
[具体的な状況・取組内容] 経過の中で必要な支援に偏りが出やすいが、ご利用者が自宅へ帰れるように支援できる環境に取り組んでいる。						
③ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等に関する関係多職種との情報共有						
18	○ 利用者等の状況変化や目標の達成状況等について、主		○			✓ 「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む

番号	評価項目	事業所自己評価			運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い		
	<p>治医など、事業所内外を含む関係多職種と情報が共有されている</p> <p>[具体的な状況・取組内容] 主治医や薬局、リハ職員とも共有しながら支援している。状況に変化があった時は電話や紙面で報告をしている</p>					<p>関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します</p>
(3)介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供						
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供						
19	<p>○ 介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている</p>			○		<p>✓ 「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です</p>
20	<p>○ 利用者等の状況について、介護職と看護職が互いに情報を共有し対応策を検討するなど、両職種間の連携が行われている</p>		○			<p>✓ 「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価			運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおそ できてい る	あまりで きていな い		
② 看護職から介護職への情報提供および提案						
21	看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○			<p>✓ 「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します</p> <p>✓ このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます</p>
(4)利用者等との情報及び意識の共有						
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供						
22	○ サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<p>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</p>
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明						
23	○ 作成した計画の内容や在宅での療養生活の継続に向けて留意すべき点等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている		○			<p>✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します</p>

番号	評価項目	事業所自己評価			運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い		
24	○ 利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族等が行うケアの提供方法等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	○				✓ 「利用者等の理解」について、充足度を評価します
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有						
25	○ 利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービスの提供に反映している		○			✓ 「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します
26	○ 在宅生活の継続の可否を検討すべき状況を予め想定し、その際の対応方針等について、利用者等と相談・共有することができている		○			✓ 「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
27	○ 終末期ケアにおいて、利用者等々に適切な時期を見計ら		○			✓ 「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視

番号	評価項目	事業所自己評価			運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い		
	<p>って、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している</p> <p>[具体的な状況・取組内容] 医療職からご本人・ご家族へ説明できる場を作り同意を得るようにしている。また、記録にも残り再度ご本人・ご家族へ説明を行い見解に違いがないように取り組んでいる</p>					<p>点から、充足度を評価します</p> <p>✓ 「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」</p>
2. 多機関・多職種との連携						
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供						
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行						
28	<p>○ 病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している</p>	○				<p>✓ 「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</p> <p>✓ 例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</p>
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有						
29	<p>○ すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができている</p>	○				<p>✓ 「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</p> <p>✓ 利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</p>

番号	評価項目	事業所自己評価			運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築						
30	○ 地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○			✓ 「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
[具体的な状況・取組内容] 契約時にご本人・ご家族と確認を行い、対応できるようにしている。職員へも周知している						
(2) 多職種との連携体制の構築						
① 運営推進会議等における、利用者のために必要となる包括的なサポートについての、多職種による検討						
31	○ 運営推進会議等において、利用者のために必要と考えられる包括的なサポートについて、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等への情報提供や提案が行われている		○			✓ 「利用者のために必要となる、介護保険外のサービスやインフォーマルサポート等を含めたケアの提供について、多職種とともに行う検討・支援を行っていくなどの取組」の充足度を評価します ✓ そのような取組をしたいことがない場合は「全くできていない」 ✓ 民生委員のみでなく、自治会長や町会長などの住民代表も対象です
[具体的な状況・取組内容] 二ヶ月に一回開催しており、地域行事の事や運営について意見交換を行っている。また、防災や防犯については意見を頂く事も多い。						
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画						

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき て い る	おお よ そ で き て い る	あ ま り で き て い ない	全 く で き て い ない		
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
32	○ 運営推進会議の記録について、誰でも見ることができ るような方法での情報発信 が、迅速に行われている	○				✓ 「誰でも見ることができ る方法での情報発信」と「迅速な情報 発信」の2つの視点から、充足度 を評価します	
33	○ サービスの概要や地域にお いて果たす役割等につい て、正しい理解を広めるた め、地域住民向けの積極的 な啓発活動が行われている	○				✓ 「積極的な啓発活動」について、 評価する項目です ✓ 例として、「チラシ等の配布」や 「地域説明会の実施」などの取組 が考えられます。 ✓ 利用者や職員の確保のみを目的 とした活動等は除きます	
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
34	○ 看護小規模多機能型居宅介 護事業所の登録者以外を対 象とした訪問看護を積極的 に実施している	○				✓ 「指定訪問看護事業所の指定を 併せて受けている事業所」のみが 対象です。該当しない場合は、実 施状況欄は無記入で、「具体的な 状況・取組内容」欄に「指定なし」	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足 と記入してください
		よく でき ている	おお よそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
35	○ 「たん吸引」を必要とする要介護者を受け入れることができ、体制が整っており、積極的に受け入れられている		○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れられることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します
36	○ 「人工呼吸器」を必要とする要介護者を受け入れることができ、体制が整っており、積極的に受け入れられている						<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください ✓ 「受け入れられることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」 ✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足の 観点から、充足度を評価します
		よく でき ている	おお よそ でき てい る	あまり でき てい ない	全く でき てい ない		
37	○ 「看取り支援」を必要とする要介護者を受け入れることができ、積極的に受け入れている	○				<p>✓ 「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</p> <p>✓ 「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</p> <p>✓ 「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の観点から、充足度を評価します</p>	
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
38	○ 管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で見ている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している			○	<p>地域の看護師のレベルアップと意識向上を目的に朝生田地区の連絡協議会という形で包括さんを主導に進めていってはどうかという提案があった。</p>	<p>✓ 「内容等の理解」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます</p> <p>✓ 地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」</p>	

番号	評価項目	事業所自己評価			運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく でき ている	おおよそ できてい る	あまりで きていな い		
②	サービス提供における、(特定の建物等に限定しない) 地域への展開					
39	○ サービスの提供エリアについて、特定の集合住宅等に限定せず、地域に対して積極的にサービスを提供している	○				<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します ✓ 看護小規模多機能型居宅介護は、特定の集合住宅等に限定することなく、地域全体の在宅療養を支える核として機能していくことが期待されます ✓ 特定の集合住宅等のみを対象としている場合は「全くできていない」
③	安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等					
40	○ 介護・看護の観点から、地域の関係者に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案等が行われている		○			<ul style="list-style-type: none"> ✓ 「課題提起や改善策の提案等の取組」について、その充足度を評価します ✓ 今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます ✓ そのような取組をしたことがな

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足 い場合は、「全くできていない」
		よく でき ている	おおよ そ でき てい る	あまり で き て い ない	全く で き て い ない		
41	○ 家族等や近隣住民などに対し、その介護力の引き出しや向上のための具体的な取組等が行われている		○			<p>✓ 「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します</p> <p>✓ 今後は、利用者への家族等や近隣住民の関わりを促しながら、関係者全員の介護力を最大限に高めることにより、在宅での療養生活を支えていくための環境を整えていくなどの役割も期待されます</p> <p>✓ そのような取組をしたことがない場合は、「全くできていない」</p>	
					<p>[具体的な状況・取組内容] かわら版や新聞等で発信を行っている に繋がるようにしている 日中、ご家族が介護できるよう自宅支援にも取り組んでいる。</p>		

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
42	○ サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>② 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p> <p>【具体的な状況・取組内容】 ご本人・ご家族の意見を取り入れながら個別の目標を記録に残し、定期的に見直しをしている 毎月、介護職は個別の経過記録を書き課題をみつけている。看護師は看護計画書・報告書を主治医に提出している。</p>	<p>✓ 「計画目標の達成」について、評価します</p>	
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
43	○ サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下においての在宅での療養生活の継続に対し、安心感が	<p>1. ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>② 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>4. 利用者の1/3には満たない</p>		<p>✓ 在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」に</p>

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
	得られている	<p><u>【具体的な状況・取組内容】</u> 在宅に戻るの難しいご利用者も多い。通いの場では安心感があるが、自宅では難しいのが現状なので、訪問・訪問看護でも支援ができるケースを模索していく</p>		<p>ついて、評価します</p>
44	<p>○ サービスの導入により、在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等において、在宅での看取りに対する安心感が得られている</p>	<p>① ほぼ全ての利用者について、達成されている 2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている 3. 利用者の1/3くらいについて、達成されている 4. 利用者の1/3には満たない 5. 看取りの希望者はいない</p> <p><u>【具体的な状況・取組内容】</u> ご利用者・ご家族の意思を聞きながら実現できるようにしている。また、開設から看取り事例があり、新聞等で周知している</p>		<p>✓ 在宅での看取りを希望する利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「在宅での看取りに対する安心感」について、評価します</p> <p>✓ 在宅での看取りは、事業所内（通い泊まり）での看取りを含みます</p> <p>✓ 在宅での看取りの希望者がいない場合は、「5. 看取りの希望者はいない」</p>